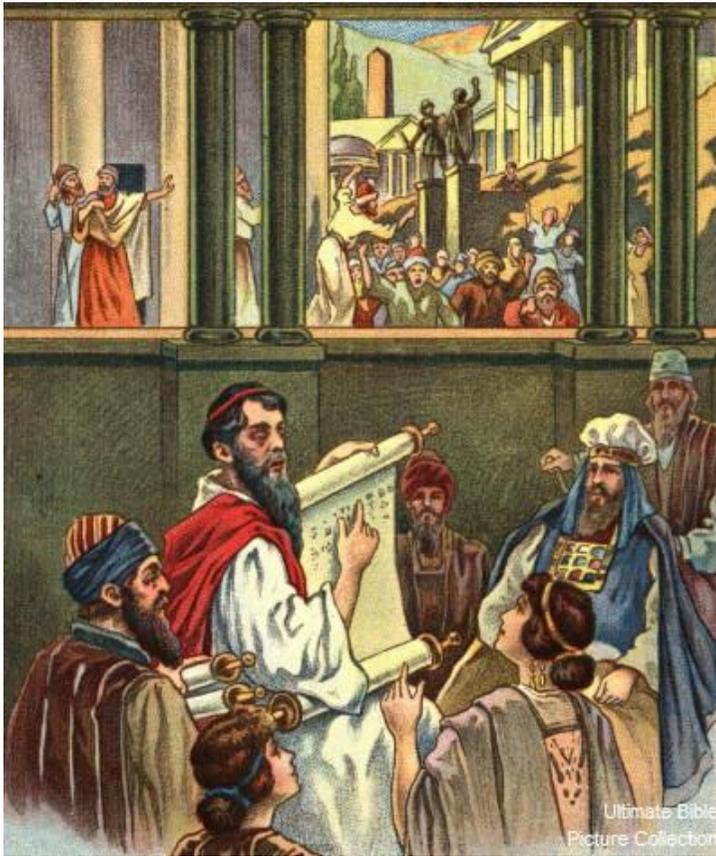


2023年11月19日 説教「テサロニケでの宣教」

使徒の働き 17章 1～9 節

ピリピにおける宣教は、短い間にいろいろとありました。ルデアと家族のバプテスマ後に、占いの霊につかれた女の悪霊を追い出したことから、投獄されることになったパウロとシラス。獄中の賛美は美しいものでした。そこに地震が起き、危うく自害をしようとした看守が救われ、家族共々バプテスマを受けました。夜が明け、釈放が告げられたのですが、パウロは敢えて自分たちがローマ市民権を持つ者たちであることを伝えました。長官たちは恐れ入って獄に来て釈放し、市から立ち去るようと言い渡したのです。



1. テサロニケの人々に福音を語る (1～3 節)

①テサロニケへ (1)「**彼らはアムピポリスとアポロニヤを通して、テサロニケへ行った。そこには、ユダヤ人の会堂があった。**」

パウロの一行はピリピから 50 キロほど南西にあるアムピポリス、さらに南西に 50 キロほどの所にあるアポロニヤを通過し、さらに 60 キロほど西北にあるテサロニケへと入っていきました。テサロニケは海港です。紀元前 315 年にマケドニアのカサンドロスが近隣の 26 の町村の人々を集めて新しい市を創設し、妻のテサロニカにちなんでテサロニケと命名しました。この町は通商上重要な地位を占めたのは、良港であるとともに、大街道沿いにあったからです。新約聖書にテサロニケの教会への手紙が二つあることはご存じのとおりです。当時、そこにもユダヤ人会堂がありました。それほどにユダヤ人たちが散っていたのだとわかります。

②聖書に基づき (2)「**パウロはいつもしているように、会堂に入って行って、三つの安息日にわたり、聖書に基づいて彼らと論じた。**」

パウロは新しい町に入った時に、よくユダヤ人会堂に行きました。やはり良い突破口となったからでしょう。彼らは三週間にわたってこの地において伝道しました。そして、彼らと論じ合いましたが、その時の原則は、聖書に基づいて論議したということです。旧約聖書は双方にとっての、共通の土台であったからです。

③十字架と復活の説明 (3)「**そして、キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえらなければならないことを説明し、また論証して、『私があなたがたに伝えているこのイエスこそ、キリストなのです』と言った。**」

パウロがユダヤ人に福音を語るときに、贖罪を強調したと考えられます。彼らも子羊などをささげることによって、罪の贖いを受けていたからです。彼らは、イエスが子羊として十字架上で苦しみを受け、死んだ後に復活することによって贖われることを説明したことでしょう。そして、そのイエスこそ救い主であることを、伝えたのです。ヘブル人への手紙に伝えられている内容はユダヤ人には有効でありました。

2. パウロとシラスの動向 (4~6節)

①福音を信じる人々 (4)「彼らのうちの幾人かはよくわかって、パウロとシラスに従った。またほかに、神を敬うギリシャ人が大ぜいおり、貴婦人たちも少なくなかった。」

パウロたちの語る福音について、理解してこれを受け入れ、パウロとシラスに従ってくるユダヤ人もいました。また、ギリシャ人で神を受け入れているギリシャ人たち、教養があって裕福な婦人たちもいて、彼らも福音を受け入れていったのです。

②ヤソンの家を襲い (5)「ところが、ねたみにかられたユダヤ人は、町のならず者をかり集め、暴動を起こして町を騒がせ、またヤソンの家を襲い、ふたりを人々の前に引き出そうとして搜した。」

しかし、信じる者たちが増える様子を見て、ユダヤ人たちは妬みました。そして、その町のならず者を集めて暴動を起こし、町を騒がせたのです。加えて、クリスチャンになったと思われるヤソンの家を襲って、パウロとシラスを引っ張り出そうとしたのです。

③役人たちのところへ (6)「しかし、見つからないので、ヤソンと兄弟たちの幾人かを、町の役人たちのところへ引っ張って行き、大声でこう言った。『世界中を騒がせて来た者たちが、ここにも入りこんでいます。』」

しかし、パウロとシラスはヤソンの家にはいませんでした。そこで、彼らはヤソンたちを、役人たちの所に連れて行き、言ったのです。『世界中を騒がせている者たちが、入り込んでいます!』

3. ヤソンたちの釈放 (38~40節)

①別の王 (7)「『それをヤソンが家に迎え入れたのです。彼らはみな、イエスという別の王がいると言って、カイザルの詔勅にそむく行いをしているのです。』」

『ここにいるヤソンはそいつらをかかっていたのに相違ないのです。そいつらが言うには、ローマの皇帝以上の王がいると言って、皇帝の命令に背くことを行っているのです。取り締まってください。』

②町の者は不安に (8)「こうして、それを聞いた群衆と町の役人たちとを不安に陥れた。」

ユダヤ人たちは言葉巧みに、パウロやシラスの行動を弾劾し、群衆と役人に大変な心配をもたらしたのです。

③保証金で釈放 (9)「彼らは、ヤソンとそのほかの者たちから保証金を取ったうえで釈放した。」

とはいえ、パウロとシラスがヤソンの家にいたという証拠があるわけではありませんので、役人としてもそれ以上の拘束や投獄はできません。結果としては、ヤソンたちから保証金を取って釈放をしたのです。

《結論》

パウロがテサロニケにおいて、ユダヤ人たちを相手に、どのようにキリストを伝えたでしょうか。ここには、「聖書に基づいて彼らと論じた。」とあり、さらに、キリストの十字架と復活について、「説明し論証した」とあります。伝道については、各人が異なったイメージを持っていると思います。その一つには、わかりやすく語ることが大切であると考えの人がいます。実際、イエス・キリストはたとえを用いて話されるなど、誰しもが聞きやすい話しをして下さいました。ところが、パウロは理詰めでイエス・キリストの十字架と復活の必要性を論じたのです。実際のところ、身代わりとか贖罪という概念は、やさしくありません。むしろ、積み上げるように語っていったほうが、聞く方は理解しやすい問題です。パウロはローマ人への手紙において、1章から8章までにわたって福音を明らかにしています。これを難しいと言う人があられるでしょう。でも、それを聞く人が自らの罪を真正面から受け止めていけば、それは肺腑をえぐるような内容となってきます。そして、その罪を認めたときに、どうしても必要な救いを教えてもらえるなら、それはわかりやすい教えと言えるのです。自分が払わなければならない、罪の清算をイエス・キリストが代わって十字架で受けてくださったという説明は、わかるまでは時間を要するかもしれません。しかし、それがとてつもない愛に基づいているということがわかるならば、まるで難しい数学の問題がとけたように、わかってくるのです。テサロニケの人々もよくわかった人が現われました。貴婦人も少なくありませんでした。

罪はあなたと神様との間においてわかってくるものです。御言葉が語られて罪がわかった時も、聖霊があなたと神様との間に働いてくださったのです。私は高校二年生のクリスマスに洗礼を受けたのですが、その当時は神さまを信じ、イエス様を信じていました。しかし、福音は理解していませんでした。ですから、自分の努力で罪を克服する道を考えていました。しかし、それは無理でした。ある伝道団体の集まりを通して、福音を知らされました。それから自分の罪に苦しむようになりました。そして、大学2年の時に自らのいかんともしがたい罪を神の前に告白して新しい歩みが始まりました。

兄弟姉妹。あなたの罪を本質的に赦せるのは、カイザルではありません。イエスというまことの王です。7節で「別の王」と人々が言っていましたが、王の王である方こそがあなたの罪を赦すことができます。あなたの罪を背負って十字架にかかって下さったイエス・キリストがあなたの救い主です。私たちはこの方によって救われてきました。今、あなたができることはこの方を信じることです。この方の愛によって救われるのです。

信じて救われる人が起こされる時には、激しい反対もあります。またここには妬みがしぶとく根付いていました。これは悪霊の働きでもあります。思っているよりも強力な相手です。私たちの救いをもつぶしにかかってくるような働きです。それでも、心配することはありません。神の愛は最後に必ず勝つからです。パウロは第三回伝道旅行でも、このテサロニケを訪れて、兄弟を励ましています。主の励ましを受けながら、救い主を信じ続けていきましょう。

アメイジンググレイスの作者ジョン・ニュートンは、散々悪さを重ねてきたことを、本当に知らされたのは、船が転覆しそうになった時に、神に祈った時でした。彼はその時に、本当に悔い改めたのです。そして、真の愛によって赦しをいただくことができたのです。まさに「驚くべき愛」でした。彼は信ずると共にに献身をしました。そして、伝道者の道へと進んでいったのです。